

日本共産党 和歌山市公議員

ひめだ高宏ニュース

No.867
11.6.15

6月定例会市議会は21日(火)から

6月もなかばになると、さすがにむし暑くなるものですね。改選後初の定例会市議会が来週から始まります。14日(火)日提案が議会運営委員会(2)面のとり決まりしました。

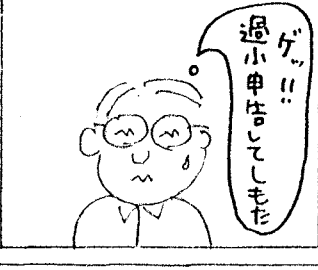
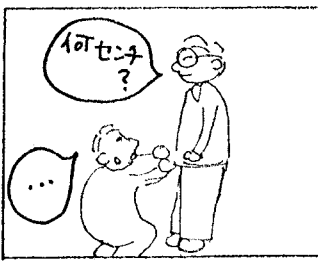
私、ひめだの一般質問は27日(月)10時?

日本共産党市議員は、今議会もちん全員が本会議に登壇し、一般質問をする予定です。

私、ひめだは、防災無線が対象地域全域に届かない(聞こえない)問題をとり上げ、改善を求めます。(一)

また、紀三井寺団地の路線バスが廃止された問題で(二)水まで団地のみなさんと一緒に取り組んできた公共交通の確保について質問します。傍聴に来てください。

フリーの人々



日本共産党市会議員団

震災救援で申し入れ

市への支援担当地域などに、142人、市職員を派遣し、や今後の取り組みの計画などが示されました。

6月15日(水)午前9時45分から日本共産党市議員団は、大橋市長と東日本大震災の救援について面談しました。これは、3月14日、市議員の市長への申し入れについて、その後の原発問題での党の提言などをふまえたものです。大橋市長が



大橋市長と市議員の面談の様子。左から大橋市長、森下議員、渡辺議員、松崎議員、右から小教和雄議員、南川木議員、ひめだ議員。

こんにちは
日本共産党の
ふじい健太郎です。
(その294)

東日本大震災でのボランティア経験はわずか2日間でしたが、多くのことを学べたと思っています。側溝の泥上げをしましたが、壊された家の再建をボランティアの手を借りながらすすめている人もいました。今、国は国が描いた復興の都市づくりを地元で押し付けようとしていますが、住民の意向を抜きにしての上からの都市づくりでは、元々住んでいた人が住めなくなってしまうのでは

ないかと思いました。青空市場では、はじめに救援物資らしいものをいただいた、こんなものがほしかったとたいへん歓迎されました。船がなくなると、仕事がなくなり、収入が途絶えても家があれば生活物資が届かないという問題も知りました。

救援活動の継続と地元住民を主体とした町の復興が必要で、大災害から国民の命と生活を守り、生活を再建するのは政治の大きな仕事だということも学んできました。



ふじい健太郎 前県議員

FMワカヤマで初録音

放送は7月6日と10日

6月15日(水)塩屋ち丁目にあるエフエムワカヤマ(コミュニティラジオ才放送)の「和歌山市議会通信」に出演(録音)。この番組は、毎週水曜の16時から、再放送は、日曜の2時から1時間枠のこと。私、ひめたのご近所の放送局ですが、初めてスタジオに入りました。



私、ひめた出演の放送は7月6日(水)16時~と10日(日)21時

20年前の市議選への初立候補のまっかけや生まれ故郷の総島の話、趣味のテニスの話など質問に答えました。話の合間に私から曲リクエストをしました。曲名は聞いてもらえるまでのお楽しみ。放送日は右記のとおり。

こんにちは日本共産党



エネルギー分野に投入された税金の3分の2が原発関連だったと民青同盟の新聞が紹介しています。政府が1974年から2007年までの34年

間に、エネルギー分野に投入した税金は、10兆5千億円にのぼり、そのうちの66%が原発でしめられていたのです。関西電力は和歌山県内で多くの原発計画をたてましたが、日本共産党が県議会

で原発問題を管すと、歴代の知事は「適地性・安全性の地元合意」を繰り返すばかりでした。その「安全性」は、福島事故で根底からひっくり返りました。約7兆円の税金を投入しながら、今の事態を招いた国の責任は重大です。そして、「安全性」の未確立が福島事故によって明確になった今日、県当局は「原発ノー」の姿勢を示すときです。

薬草を求めて秋葉山散策会

7月3日(日) 13:30~16:00ごろ

集合 丹珠院(秋葉町)東隣の広場
行先 秋葉山 参加費 100円
指導 馬場 保先生(漢方薬・生薬認定薬剤師)

主催 連絡先 日中友好協会 県連 424-6531

6月定例市議会日程(案)



月日(曜)	会	議
6.21(火)	本会議	議案説明(一般質問通告締切)
23(木)	"	一般質問
24(金)	"	"
27(月)	"	"
28(火)	"	"
29(水)	"	一般質問、質疑、委員会付託
30(木)	常任委員会	"
7/1(金)	"	"
4(月)	"	"
6(水)	特別委員会	"
7(木)	"	"
11(月)	本会議	委員長報告、討論、採決

私、ひめたは経済文教委員です



「ワッソんな声、待ってました。」

先日、宇須のヒダカヤで偶然会った方から「いつも読んでいます。手書きでいいです」と声をかけていた読者の投稿。書き記念日1俵町偽太郎

短歌 勝田 鉄也

喉を焼くほどに旨きモウイスキー
じつと我慢す気の危機が待つ
わが釣りは小鰹釣りより始まりぬ
浮子の入れば雑念の消ゆ